



並木中等story

令和4年9月30日号

9月30日に実施した前期終業式での校長挨拶の抜粋です。

私は夏休みにT大学、D入試センターの方と話をしました。今日はそこで得た情報を紹介します。今年の夏休みは、多くの大学が入試改革に関して話し合いを進めています。なぜでしょうか？今の4年生から学習指導要領が変わり、学習内容や評価の付け方も変わったからです。新しい学習指導要領では、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）、生徒自らの学びが一層重視されました。なぜだと思いますか。かつての覚えるだけの教育を変えたいからです。考えてください。**覚えるだけでは、新しい発想はなかなか生まれません。大切なのは、いくつかの知識を組み合わせる、思考力や判断力をつけることなのです。**

中高校生の時期は一生の学び方を身に付ける大切な時期です。この時期に身に付けた学び方が、皆さんの生涯の学び方になるのです。私が中高校生の頃は、“いかに覚えるかが中心でした” テストも1問1答のような問題ばかりでした。一つ1点で100問のテストもたくさんありました。そのため、私の勉強は今でも“暗記しよう”としてしまうのです。暗記中心では、新しいアイデアを生み出すトレーニングができません。現状維持がやっとなのです。

7月の集会でもお話ししましたが、近年、日本経済の国際競争力が落ちています。その原因の一つが覚える教育だとも言われています。**国際競争力を回復するには、考えて生み出すことが必要**です。そのようなこともあり、今後、入試の質も大きく変わります。皆さんもそのことを覚えておいてください。

ちなみに、新学習指導要領に対応した共通テストの試作第2段が、今年の秋に大学入試センターから発表されます。皆さんは大学入試センターのHPからその試作問題を見ておいてください。

今後、すべての大学で一問一答の知識理解を問う問題は大きく減るでしょう。過去問に頼っている人は要注意です。**教わるだけでなく、自ら学ぶことができる生徒**になれるよう、並木中等在籍中に自分を磨いてください。